

福井県DXの推進

(福井県から日本を変える)

令和6年3月26日

福井県

00 本日も話す内容

1

行政DXの必要性（出発点）

2

3年間の振り返り

3

今後求められる取組み

4

御礼と期待

行政DXの必要性

社会変化への対応と地域の将来のため

01 行政DXが求められる背景

D Xにより、従来の事業遂行アプローチを変える

(ヒト・モノ・カネに加え、情報・デジタル技術を基本的手段として活用)

社会のルールが大変化 (情報化社会への転換)

- 世の大宗がデジタル化
(ソフトウェアに代替)
- PCやスマホに止まらず、
実社会に浸透
- 比較優劣の源泉に
- 社会は今後さらに
指数関数的速度で変容
(AI・自動化等)

人手不足への対応 (労働生産性の向上)

- 人口減少により
働き手・財源等に制約
- 社会の成熟に伴い、
ニーズは多様化・複雑化
- 従来のやり方では、
サービス水準は維持困難

地域の暮らしや風景を 後世に残す

- 5回連続 幸福度日本一
- 今の生活が続く保証なし
(人口流出・人手不足・
自然災害・公共交通縮退等)
- 地域の社会経済を活性化、
将来を持続可能に
- 疫病・災害時の
社会機能継続にも対応

02 情報化社会への転換

あらゆる産業がソフトウェアに代替される

Software is eating the world

- 映画から農業、国防まで、主要企業や産業の多くがソフトウェア上で運営され、オンラインサービスとして提供

amazon  **NETFLIX** **LINE** **Google**

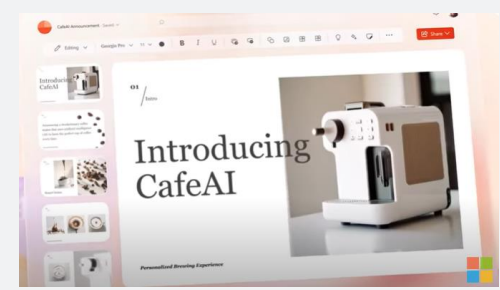
小売 音楽 映像 連絡 広告

- 先進的な諸外国では、行政事務の大半をデジタル化（結婚・離婚・不動産登記以外、オンラインで完結）

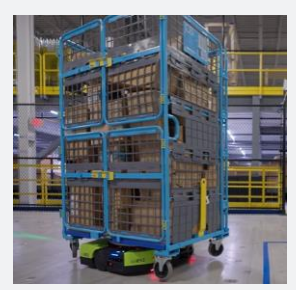


国民ID 転居手続自動化 電子投票 e-Health

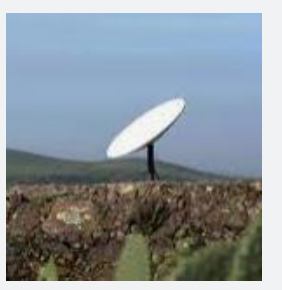
実社会・日常生活にも浸透



AI
(WordやExcelにも合体)



ロボット
(Amazon物流)



衛星通信
(Starlink)

1989年 (平成元年)		
1	NTT	●
2	日本興業銀行	●
3	住友銀行	●
4	富士銀行	●
5	第一勧業銀行	●
6	IBM	●
7	三菱銀行	●
8	エクソン	●
9	東京電力	●
10	ロイヤルダッチシェル	●

2019年 (平成31年)		
1	アップル (約US\$3兆)	●
2	マイクロソフト	●
3	アマゾン	●
4	グーグル (アルファベット)	●
5	ロイヤルダッチシェル	●
6	バークシャー・ハサウェイ	●
7	アリババ	●
8	テンセント	●
9	フェイスブック	●
10	J P モルガン・チェース	●

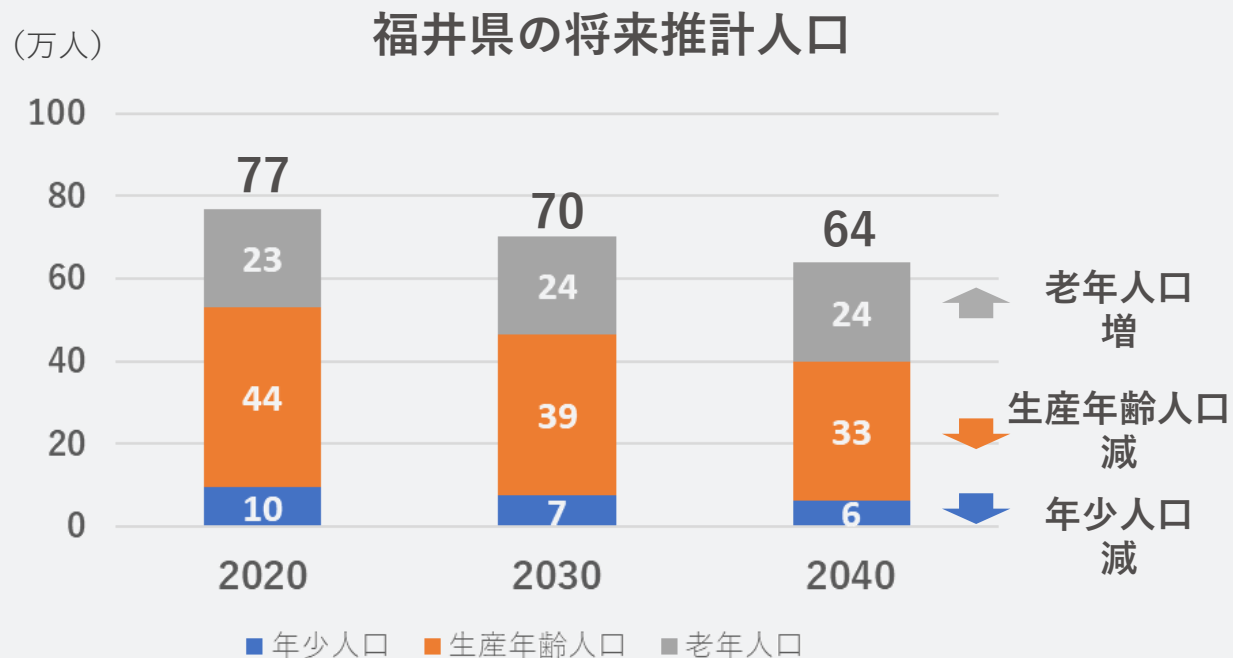
アップル1社で旧東証1部上場企業合計の半分の価値

企業価値の推移
(平成年間)

03 人手不足への対応

職員や財政等の制約の中、従来対応ではいずれ限界
(多様化・複雑化する住民ニーズへの対応は待ったなし)

総人口・生産年齢人口は減少
(職員数減・自主財源厳しく、仕事は減らない)



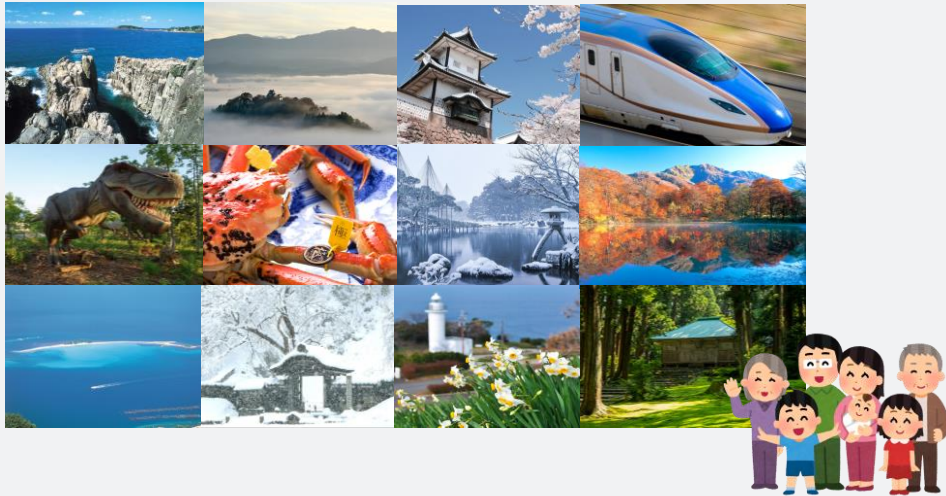
住民ニーズは多様化・複雑化

- 地域医療・介護
- 子育て支援・生活保護
- 公共交通保全・インフラ老朽化
- 地域防災・防犯
- まちづくり・地域コミュニティ維持
- 地域経済振興
- 教育環境増進・変化への対応 等

04 地域の暮らしや風景を後世に残す①

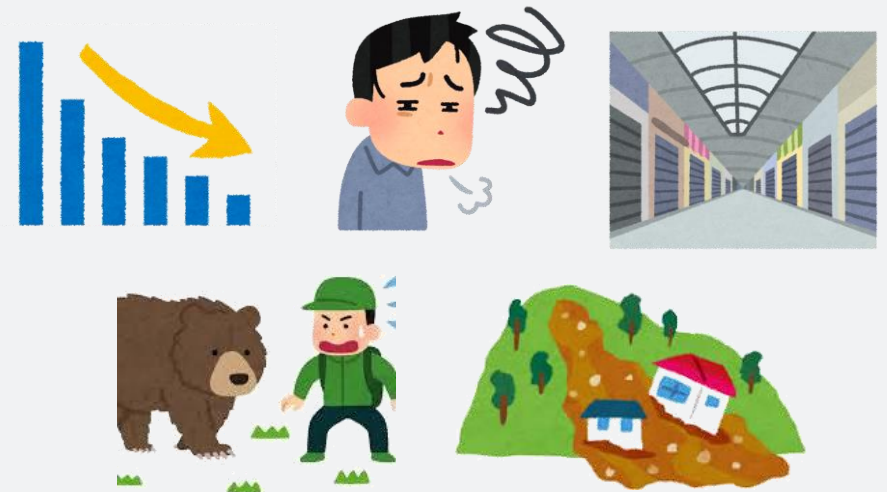
地域の社会・経済を活性化し、将来を持続可能なものに

高いQoL・幸福度日本一



- 豊かな自然や食
- 全国トップクラスの教育や子育て
- 家族や地域のつながり・穏やか勤勉な人柄
- 新幹線開業等、大交流時代の幕開け

将来に影を落とす課題



- 続く人口流出
- 県内産業の人手不足
- 過疎拡大・自然災害・公共インフラ縮退

05 地域の暮らしや風景を後世に残す②

パンデミックや災害の頻発・激甚化が予測される (それらに即応できる社会・行政を構成する必要)

疫病・激甚災害の頻発化

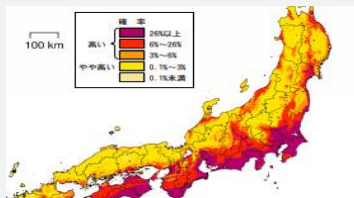
ウィルス
変異等



気温上昇
異常気象

産業革命以前を 水準として	+1.5℃	+2℃	+4℃
10年に1回の 高温 (頻度)	4.1回	5.6回	9.4回
10年に1回の 豪雨 (雨量)	10.5%増	14%増	30.2%増
平均海面水位 (1995~2014年 平均と比べて)	28~55cm 上昇	32~62cm 上昇	63~101cm 上昇

震度6以上の
地震確率



目指すべき対応 (疫病・災害時の業務継続)

人が動けない場合も、データと機械が支援

- タイムリー・的確な災害等対応
- 行政機能の継続運営

非接触・分散型でも稼働する、

- リアルタイムの状況把握・被災対応
- 極限状況でも機能するデジタル行政

06 行政DXのパーパス

地域の社会・経済を活性化し、将来を持続可能なものに

利用者目線でやり方・仕組みを見直し
即効性が高い手段(DX)

生活のDX
利便性・魅力向上
(質的向上・広く発信)

産業のDX
生産性向上
(収益改善・待遇改善・雇用創出)

行政のDX
県民の生産性確保
(手間負担軽減・リソース確保)

人の呼び込み・定着
交流人口増

需要の確保
産業の創出・高度化

県民・企業の
挑戦機会を確保

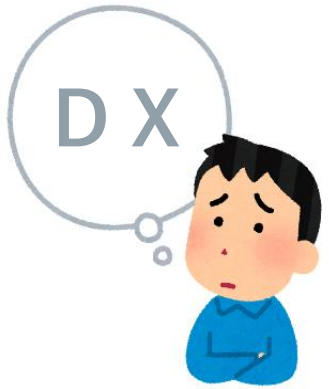
地域社会・経済を活性化し、地域の将来を持続可能に

3年間の振り返り

チェンジマネジメントに向けた
仕組み作りと機運醸成

07 実情に応じた対応①

「利便を実感できる取組み」と「達成に向けた仕組み」



DXに
お悩みの方多数



変化の必要性
感じない



デジタル人材
不足



都市部との
環境格差



利便を実感できる
デジタルの取組みを先行提供

生活に密着した利便を実感
自分事として取り組む機運を醸成



自律的・継続的な
DX遂行の仕組み作り

実務や制度に精通する現場×デジタル
全体的な取組を支える基盤整備

- 方針策定
- 意識変革
- 推進体制整備
- 人材育成確保
- 制度設計
- システム整備

08 実情に応じた対応②

D Xはチェンジマネジメント (全職員での実行を促し、それを機能させる仕組みを整備)

行政D Xは「全員野球」

(一部の専門家でなく、全職員が実行)

- **社会のセーフティネット**
(取り扱う領域の取捨選択が困難)
- **事業範囲が非常に幅広い**
(教育・産業・交通・土木・医療福祉…)
- **課題・経緯・制度設計に知悉する必要**
(自組織を超えた関係者への働き掛け)

現場専門知識 × デジタル

〔 デジタルを「普段使い」した
「現場」での実行力ある業務変革が必要 〕

D Xは「自転車」と同じ

(便利な道具だが、上手なきっかけ作りが大切)

- **歩くよりも遥かに遠くに行ける道具**
(我々の可能性を大きく拡張)
- **一歩目は、子どもが初めて乗る時と同じ**
(楽しさを伝え、背中を支え一緒に練習する所から。
一度乗れたら、その後はどこまでも走れる)
- **D Xも同じ、やり方を変える新たな挑戦**

ビジョン + 支援体制 + 成功体験

〔 What (何が必要か) は重要である中、
Whatを具現化するHow (如何に行うか) が大切 〕

09 3年間の取組み全体像

地方の実情

県民・市町・産業にて
お悩みの方多数

- ✓ DXとは何か
- ✓ 何がどう変わるか
- ✓ どう進めるか

生活の質が高い故
変化の必要性感じない

都市部との環境格差

デジタルサービスの

- ✓ 提供状況
- ✓ 利用環境

都市部への
デジタル人材偏在

(水面の上)
**利便が実感できる
デジタルの取組**

機運醸成
肚落ち



(水面下)
**全県挙げた
DX遂行を支える
土台・仕組み作り**

業務遂行に向けた基盤整備
(各部局専門知識×デジタル推進)

県民生活密着型サービスの先行提供

コロナ対策・地域課題解決・産業支援・デバイド対応

- ✓ 豪雪地帯 ▶ 除雪・道路情報可視化
- ✓ 車社会・交通事故多発 ▶ 危険区域可視化 等

機動的な事業化

DX事業の期中拡大*
(47 ▶ 87事業)

方針策定

- ✓ ビジョン・行動規範・合言葉・DX政策集

意識変革

- ✓ 知事率先垂範・CDO全庁研修

推進体制整備

- ✓ CDO配置・DX推進組織拡張
- ✓ 意思決定機関（トップダウン）
- ✓ 現場実行体制（ボトムアップ+自走仕組み化）

人材育成確保

- ✓ 研修体系整備（座学・実践・伴走型の3層）
- ✓ 職員採用DX枠創設・兼業型委嘱制度導入

デジタルシフトを促す制度設計

- ✓ 予算編成重点枠新設・サービス規程設定 等

情報システム整備

- ✓ クラウド基盤・相談受付体制・取組共有可視化

県

機運醸成

- ✓ 幹部・担当・県民向け3層

連携強化

- ✓ 共同ワークショップ
- ✓ 商工団体との連携体制整備

共同事業

- ✓ 人材技術支援
- ✓ 共同事業（伴走型）
- ✓ 資金支援
- ✓ システム共同利用 等

市町・産業との連携

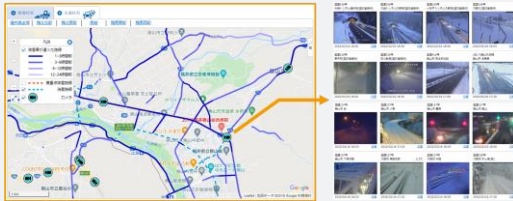
*DX事業数：令和3年度当初47事業、令和5年度末時点87事業

10 デジタルの取組み

生活に密着した利便を提供、自分事化により機運を醸成

生活密着の課題解決

大雪対策DX
(除雪状況見える化)



交通安全対策DX
(隠れた危険エリア見える化)



県民目線で再デザイン

手続き電子化 (98%実施) **わかりやすい情報発信** (HPアクセス解析) **政策形成への参加** (意見傾聴の場)



県民参加

シビックテック
(地域住民・民間団体と協働)



ハンズオン支援
(企業現場での押し掛け支援)



外部パートナー共創

オンライン診療 (診療所等と連携) **観光データ分析** (産業・DMO等と連携) **避難所運営DX** (LINE連携)



11 DX遂行を支える土台・仕組み

全職員が自律的に取り組む仕組みを整備（人・組織・文化）

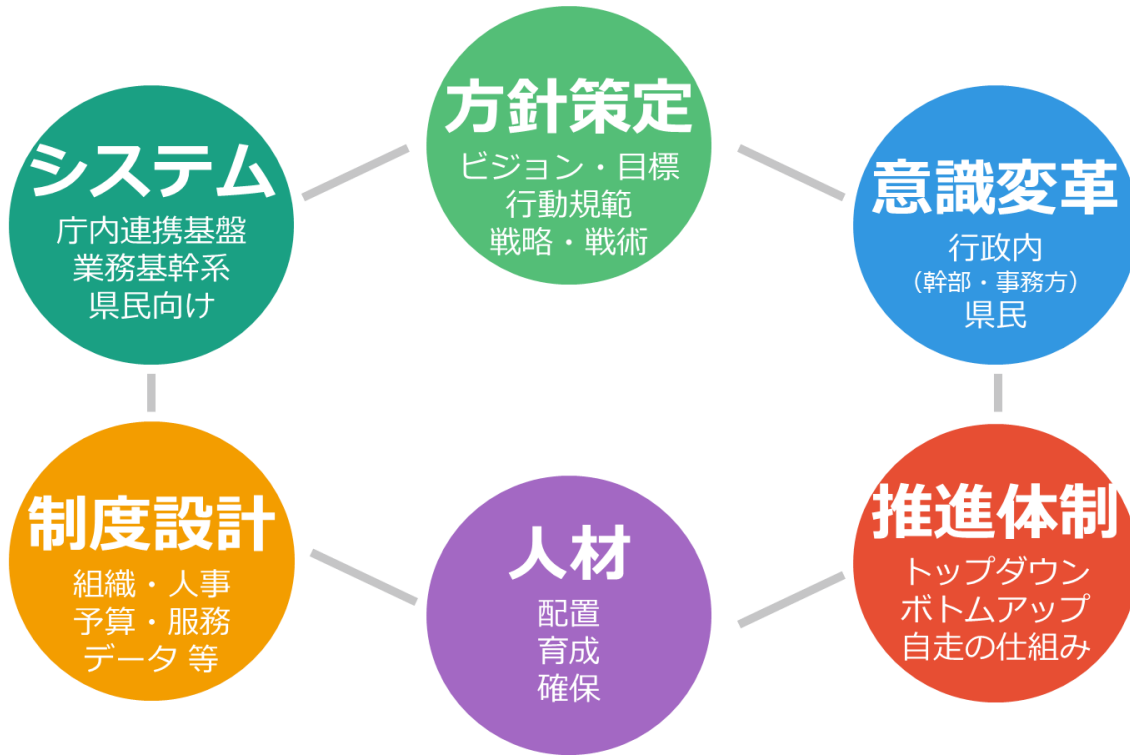


12 基盤整備の取組み

D Xプログラム策定 (ビジョン・行動規範・合言葉・政策集)

情報システム整備

クラウド基盤
相談受付体制
取組共有・可視化



研修・セミナー 累次開催

知事：

年頭訓示・研修等の機会を捉え

CDO・補佐官：

県全庁・市町・産業・県民向け

デジタルシフト制度導入

予算編成方針
トライアル枠予算
チャレンジ政策提案
ふくい式20%ルール
クレドアワード
業務共通ルール
テレワーク・ペーパーレス
知事説明オンライン化
BI予実可視化

研修体系整備

〔 県市町共同：育成方針策定、
座学／ハンズオン／伴走の3層型 〕

採用制度等新設

(D Xアピール枠・民間アドバイザー委嘱)

D X推進本部設置

(トップダウン：意思決定機関)

D Xリーダー組織

(ボトムアップ：現場実行体制)

経営資源投入

(ヒト・カネ：組織再編拡充・予算)

市町との共同推進体制

(人材育成確保・技術支援・共同事業・システム共用)

産業向け支援体制

(拠点整備・出張伴走・人材育成・資金支援・公民連携)

13 県市町協働

D X 遂行の仕組みを、市町 D X 推進支援の枠組みにも適用

D X 遂行の基盤



市町と連携した取組み

- **計画策定・体制整備支援**
- **研修・セミナー開催**
(幹部・担当者・県民向け3層)
- **共同ワークショップ開催**
(課題・取組・ノウハウの共有、実務伴走支援等)
- **人材・技術面のサポート**
(育成方針・研修の共有、専門人材派遣による支援体制)
- **地域課題解決のための共同事業**
(県市町民間協業、シビックテック、基幹業務標準化支援)
- **現場連携体制強化・システム共同利用**
(Teams全県接続による連携、データ連携型共同事業、電子申請・施設予約・電子調達等の共同運用)

14 県市町協働の取組み例

法定分野から地域独自取組みまで幅広く協働

地域
独自
DX

法定
DX

- 行政サービス改善支援
(デジ田交付金活用等)

- 地域課題解決協働

- データ連携基盤活用

- 現場連携体制整備

- デジタル人材育成

- 専門人材派遣

- 業務改善

- マイナカード総点検

- 20基幹業務標準化

- アナログ規制見直し

データ連携型 健康促進事業



市町課題解決型 共同事業



Teams全県接続 (各政策分野で県市町協働)



育成方針・研修共同化



専門人材派遣



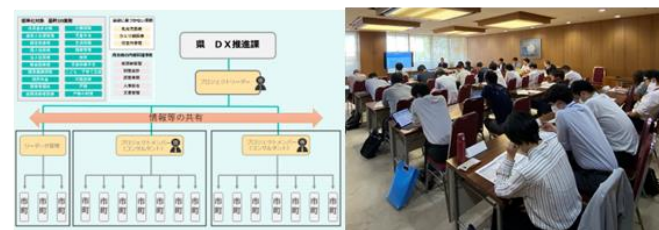
業務改善ブートキャンプ



総点検会議



基幹業務標準化実行支援



15 産業支援

チームふくいのDX推進をハンズオンで支援



DXラボ開設

(事例共有・専門家相談・資金支援・モデル企業)



ITスクール開講

(人材育成・就職支援)



県デジタル基盤開放

(データ連携基盤・地域通貨)

企業現場での支援強化

マジョリティへの普及促進

(生産性向上を積極支援)

- 押し掛け型支援
(商工団体・金融機関等と連携)
- 専門家チームを企業派遣
(中小企業診断士等コンサル)
- 個別支援強化
(業種別展開・ツールのお試し導入等)

16 外部評価と理由

外部の高い評価が自信とやる気に

外部評価



全国
1位
(33位→6位→1位)



全国
4位



DXリード
部門賞



内閣総理
大臣賞

視察・ヒアリング

政府閣僚（総理等）
国審議会ヒアリング
他自治体視察

全県的な マネジメント体制

県

- 事業倍増
(3年：47→87事業)
- 推進の仕組み

市町

- 7割で計画策定
- 現場取組拡大
(書かない窓口等)

産業

- 年1,200社支援
(対前年125%)
- モデル企業91社

デジタル 行政サービス

現場改善

- 98% 手続電子化
- 書かない窓口
- ローコード・
生成AI 日常使い

先進事業

- 自動運転レベル4
- ドローン物流
- 林業DX
- 観光データ分析
- デジタル地域通貨

住民の デジタル普及 人的資本

普及

- ネット利用頻度
- デジタル活用状況
- 情報発信量
- 取組み参画 等

人的資本

- 汎用ツール活用
(OA・Web・動画)
- 高度技術活用
(データ解析等)
- 国家試験合格 等

17 福井県DXの特徴

人・予算の多寡によらず、全員が自律的に業務変革を推進

トップの コミットメント

知事自ら率先垂範

(県内各所への意識付けに加え、
ウェブ会議・ペーパーレス・
BI予実管理・生成AI利用等)



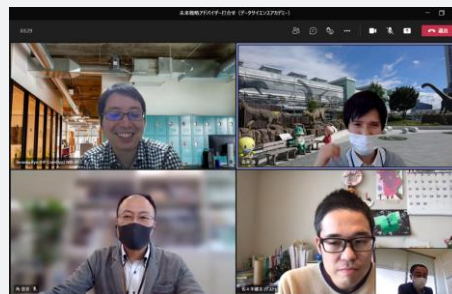
現場を動かす 仕組み

現場目線で見直し 挑戦を評価・支援



変わる意思と積極性

政策オープンイノベーション 5年前よりMS365導入



全員取組みの 機運醸成

業務改善徹底 外部評価が自信に



今後求められる取組み

法定D X対応と地域社会実装

18 今後想定される動き

法定DX対応、業務変革徹底、データ活用、連携共同化

□ デジタル庁発足

□ デジタル臨調

□ デジ田総合戦略

□ デジタル行財政改革会議

ガバメントクラウド移行 □

国・地方等のデジタル基盤共通化 □

① 法定DX対応（ガバクラ・県版デジタル臨調等）

② 業務変革徹底（行財政改革アクションプラン）

③ データ活用（Data for Policy/Society）

④ 全県的な推進体制整備（県・市町・民間の「連携」と「共同化」）

● 現場業務改善

● 人材育成確保

● 県市町連携検討

● 公民連携の端緒

● 地域独自DX中心の取組み

● 意識変革・機運醸成

● 仕組み作り（計画体制）

● 目の前の課題解決

（アナログ→デジタル）

STEP3 国集中執行対応・業務変革徹底（DX）

STEP2 取組の質量拡大（Dx）

STEP1 DX推進体制整備・機運醸成（dx）

令和3年度

令和4年度

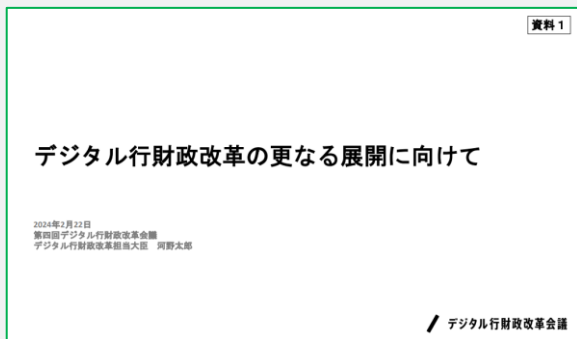
令和5～7年度

19 法定D X対応と業務変革徹底

全ての業務分野において対応が必要（全員野球の本番）

法定D X対応

（国地方デジタル基盤共通化 + 分野毎対応）



教育

G I G A
校務D X

交通

ライド
シェア

介護

技術活用
遠隔診療

子育て

情報連携
保育D X

防災

情報共有
調査D X

産業

スタートアップ
D M P

デジタル基盤

システム標準化・アナログ規制見直し・ベースレジストリ・デジタルマーケットプレイス

業務変革徹底

（行財政改革アクションプラン + 業務改善）



- 行政手続きの完全オンライン化
- アナログ規制の見直し
- ハイブリッドワーク推奨
- AI、ローコード、データ分析のフル活用

20 データ活用 (Data for Policy/Society)

交通安全DXの先例を多面的に展開

(現実のデータを活用して、先手を打った政策立案執行へ)

県民参加型実証



- 交通量・児童数の多いエリアで取組み
- 急ハンドル、急ブレーキ、スマホながら運転等を検知
- 地域の学校や企業等が協力

データ取得・分析

交通安全マップ



福井県交通安全マップ (https://fsafety-map.app)

情報公開 (危険箇所見える化)

政策展開

自動車への
速度規制
(時速30キロ区域指定)



小中学校
での活用
〔データ分析学習
児童見守り〕



歩行者への
注意喚起
(音による注意喚起)



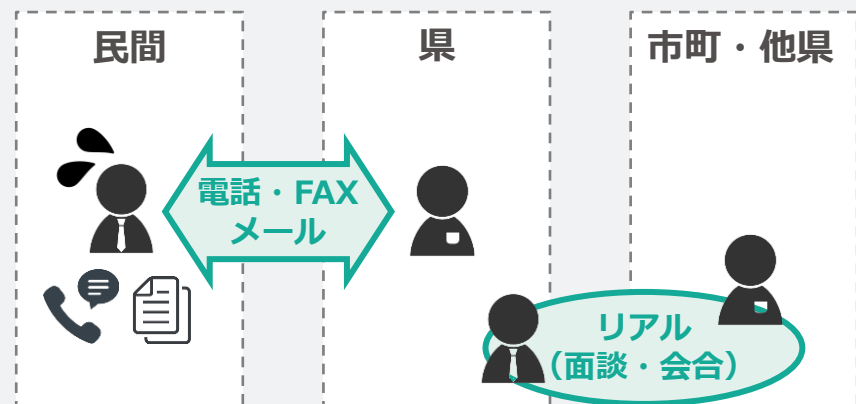
DX実装・EBPM

21 連携（政策オープンイノベーション）

幅広い政策分野で公民連携を徹底

（県の運用するTeamsを外部に拡張、組織の垣根を越えてリアルタイムに協働）

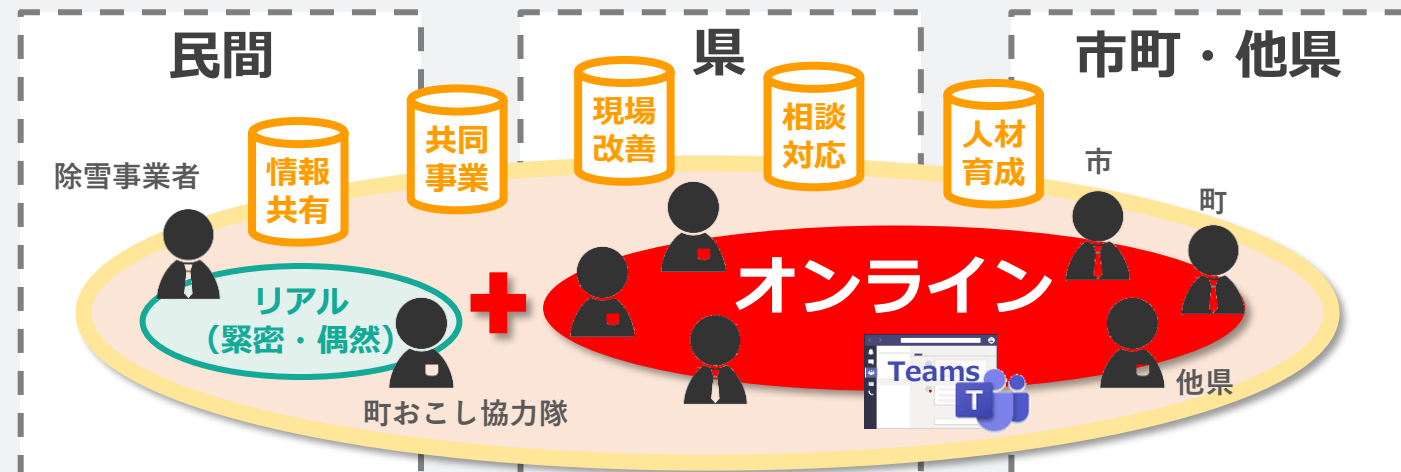
従来



リアル中心に実行
（手間・非同期・一方向・散発的）

現在

（外部人材 1300人参画、300チーム超）



リアル+オンラインで現場取組みを拡大強化
（簡便・即時・双方向により、相談・議論・共有・共同事業推進）

22 共同化（デジタル共通基盤）

システム・データを全県的に連携 + 共同利用

（地域共通基盤を市町・産業と共用し、公民連携で価値創造・資本効率向上）



- 県・市町**
 - 消費喚起（商品券、特定産業支援）
 - 給付支給（子育て、福祉）
 - 行動変容（ウォーキング、健診、ボランティア、移住、婚活、省エネ、地域行事参加）
 - 地域コミュニティ活性化
 - 観光促進
- 産業**
 - 消費喚起（クーポン含む）
 - 集客・周遊促進

- 共同利用によるコスト低減
- データ・エビデンスによる、柔軟・迅速・個別的な提案
- DX一歩目としての活用も（便利さ・効果を実感）

ウォーキングに地域通貨付与 （健康・幸せ実感増進、コミュニティ形成、行政負担低減）



23 福井県DX 第2ステージの挑戦

行政DX徹底と地域社会への波及

(「法定DX対応・業務改善」は当然に、「データ・連携・共同化」で社会実装推進)

目指す姿

1

県民の期待値に 足る行政DX

スピードアップと品質確保
(UX向上・プッシュ対応・AI活用)

2

県のみならず 地域社会全体への波及

市町・産業・教育等
(仕組みとサービスを見直し)

対応方針

変革に向けた一歩目を
より多くの方と一緒に踏み出す

生活レベルで
利便・豊かさを実感

社会実装徹底 (現場支援)

- 防災DX
- 福祉・医療DX
- まちづくりDX
- 教育DX
- 産業現場のDX支援
等

面的に
取組を推進

DX readyな 人材組織強化

- **法定DX対応**
- **業務改善**
 - ・プロセス再構築：
行政手続オンライン化・
生成AI/ローコード活用等
 - ・アナログ規制/運用の
全面見直し：
県版デジタル臨調

地域社会全体に
裨益・底上げ

連携体制強化 (公民間・行政間)

- **データ活用**
- **公民間・行政間連携**
(民間団体・シビックテック、
区市町間、都道府県間)
- **デジタル基盤共同化**
(独立・支援関係 → 協働：
共同事務・一体的運用を検討)
- **リスクリング**
(人材の高度化・流動性確保)

御礼と期待

変革に向けた意思と持続力

24 DXはチェンジマネジメント

地方発DXのフロントランナーとして変革を進め 福井県から日本を変えていただきたい

1 持続力が重要

- ・ **地道な努力を続ける** (美辞麗句や一度きりのプロジェクトでは変わらない)
- ・ **執拗に働きかける** (相手に理解して貰えるまで、相手が抵抗することに疲れるまで)
- ・ **世の常識に触れる** (体感的に「変わらねば」と組織の意識を変える)

2 実行力を持つ仕組み作りを（形式でなく実質を）

- ・ **変革の意思や本気度が見える、人事・組織づくり・コミュニケーションを**
(員数主義や前例踏襲、やってる感の演出を排して、志と行動・実質を追求)
- ・ **福井県だからこそ出来るチャレンジを**
(真面目で着実、県市町や公民間の関係の近さ、職員や県民の意欲・挑戦を引き出す仕組み)



みずから・みんなで・ふくいを**カエル**

オタマジャクシからカエルに**変態** (Transformation)

未来へ大きく**蛙飛び**

參考資料

01 DXとは① (改めて認識共有)

専門用語やツールの話ではなく、身近で簡単な話

日常的な課題



- ◆ 参加者全員の体温 (1週間分) をまとめて1枚に記入
- ◆ 3日前と当日の2回事前提出して下さい

父母会 会長



15人も参加するけど
どうやって集めんのよ…
全部転記しろって…
ママ達は忙しいのよ!! (怒)

解決策

ママ友グループ

★ **こども体温記録表の記入**

嫁: 旦那が作りましたー
毎朝、子供の名前と体温を投入して

会長: 集まる必要なくて転記もいらないの?

嫁: あと印刷するだけだって

会長: 神!! ☆☆

- 簡単に利用
- 紙管理不要
- 調整不要
- 転記不要
- 時間短縮



02 DXとは② (定義)

課題解決や価値創造に向けて
利用者目線で、やり方・仕組みを変革

デジタル技術の活用が
目的ではない



さあデジタル技術を使うぞ！使え！
と言っても何にもならない（≠魔法の杖）

大切な事は

- 手間をなくす
（＝生産性1.5倍）
- 間違いをなくす
（＝品質や生産性の向上）
- 日常の当たり前を見直す
（＝同様の不便を解決）

d

デジタル
（手段）

X

変革
（目的）

デジタル技術を活用した
チェンジマネジメント

03 DXとは③ (行政実務において)

ユーザ体験・根本的な仕組みを変革

目先のアナログ→デジタル化ではなく、ユーザ目線で作り直すことが必要

申請書と手数料を
収入証紙をお願いします

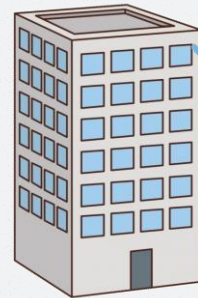
IT化・業務改善して
自動納付機にすべき？



なぜ
スマホで手続き
出来ないかな



証紙買って持ってこい？
会社休めって？



面倒くさ…



まじかよ…



04 行政DXとは

すべての県民のために、全職員で取組む必要 (全部局の専門知識 × デジタルで県民益を再構築)

目的

- **県民本位**の地域社会実現のため
(課題解決や価値創造により、
県民サービス向上・多様なライフスタイルを支援)

- 目的は従前から**変わらない**
(何をするか? したいか? が大事)
- 全ての**県民のため**
(セーフティネットの役割を含む)

手段

- デジタル技術の特質を**上手に活用**し、
- **県民目線**で抜本的に、
政策・執行の仕組みを**再デザイン**

- 人・モノ・カネ・情報と同じ、
基本的な道具として活用
(デジタルありきではない)
- **産業革命に匹敵**、
全ての営為が大きく変わる
- 「デジタル業務」等**存在しない**
(DX担当課だけの仕事ではない)

05 デジタルの取組例



行政手続 98%電子化

- 市町と共同利用
- 施設予約も改善
(直感UI・電子納付)



デジタル 地域通貨

- 県全域で展開
(市町・民間へ開放)
- 15万人利用、
4,100店舗登録



オンライン 診療

- 診療・処方・会計
- 拠点病院専門医が
公立診療所を支援



除雪状況 見える化

- 豪雪地帯
- 時系列で表示
(除雪車走行軌跡・
カメラ映像・
路面凹凸 等)



交通安全 マップ

- 交通事故多発の
全国1位の車社会
- 実運転挙動データ
に基づき分析
- 速度規制、小中学校
での教育に活用

06 業務改善の取組例

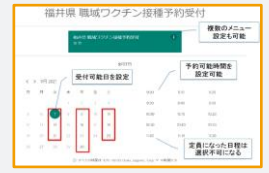
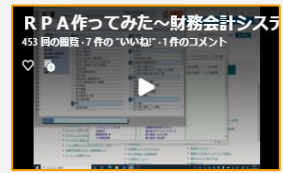
職員にも、便利さを実感・思ったより難しくないと感じて貰う

全庁ブートキャンプ (RPA・ローコード・電子申請・生成AI)

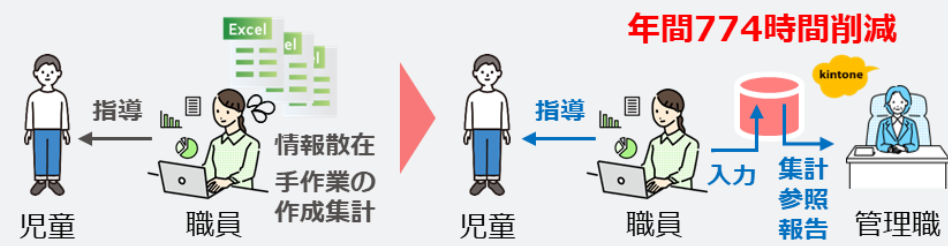


職員によるシステム内製化等 (100超の自発的取組み、3万時間削減)

RPA (支払い業務等) **ローコード** (ワクチン接種予約・公用車運転記録)



システム内製化による業務フロー見直し
(特別養護学校での情報管理・計画策定の効率化)

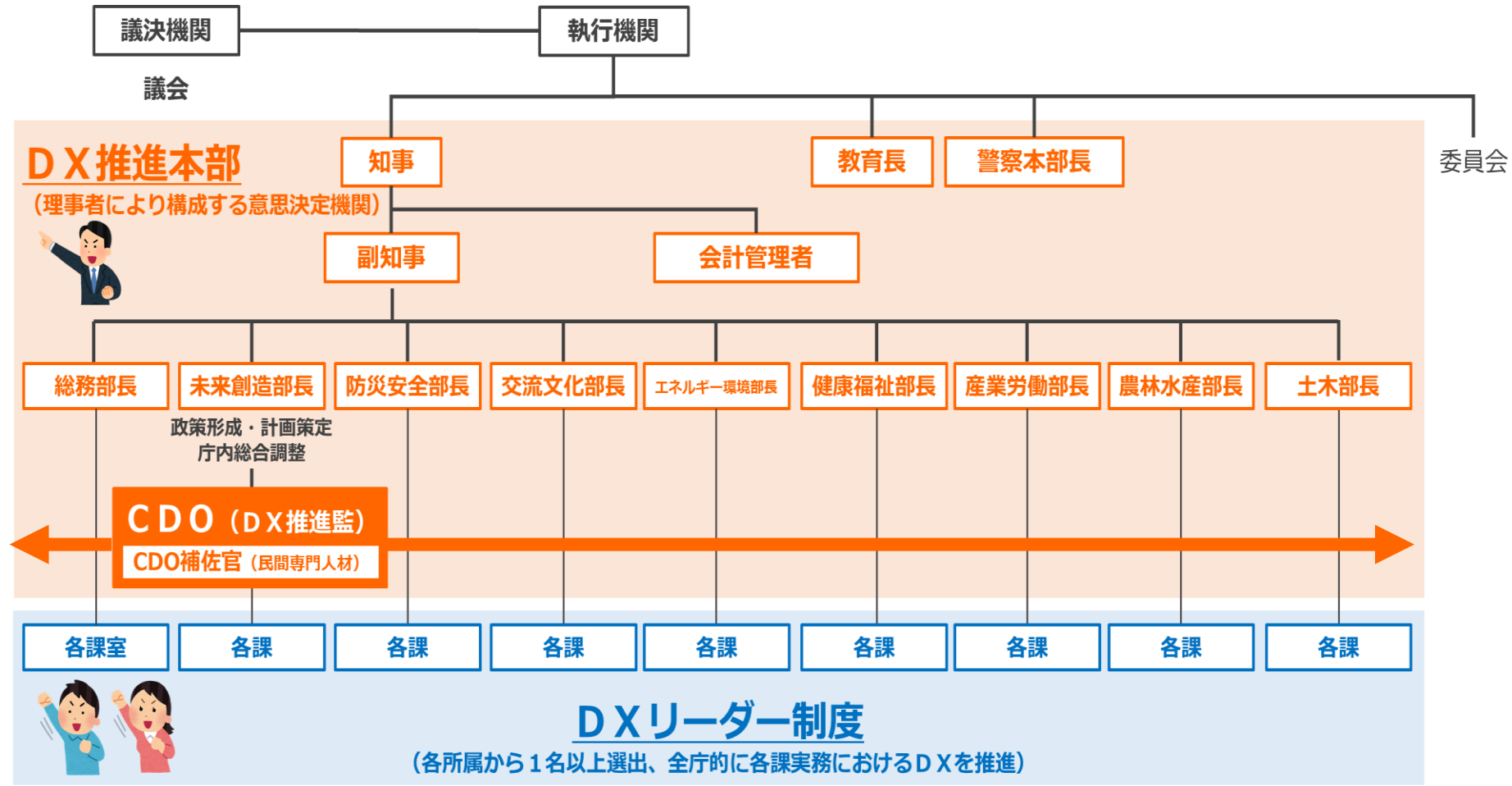


散在するデータの一元管理、簡易な情報入力・閲覧・報告書等作成

07 現場実践に向けて① 推進体制

CDO
DX推進課

- ビジョン提示
- 実行計画策定
- 組織制度整備
- 文化形成
- 政策立案
- 全庁調整



**スピード感を持って
デジタルで変える役割**



情報システム整備 (相談受付体制・事例共有・取組可視化・相互賞賛の仕組み)



各課実務の業務改善・価値創造を推進する DXリーダーを選出（全所属から280名）

DXリーダー

- **全所属**から若手職員中心に**280名**選定
- **職場のDX目標を全所属で設定**、遂行
- オンライン研修を累次実施
（**より高度な研修**・LSS再確認等）



DXリーダー研修

- **業務共通ルールに基づく業務効率化推進**
- **全庁各課でDX取組目標を設定**
（1所属1取組：1年間かけて実行・共有）
- **RPA・ローコード等、業務見直しを実践**

“Lss” 共通ルールとは？

- 県職員なら誰でもやる業務（スケジュール管理、連絡、照会業務 etc）担当課・担当者ごとに『バラバラ』になっています。
- これを最も効率的なやり方に、全庁的に統一するルールを定めたもの。
- 共通ルールは、“Lss”若手PTが中心となり、知事との意見交換会、政策参事会、地区別ワークショップなど、約100名の声を集め昨年11月に作成しました。



- 1 **意思決定は、「早く決め、早く実行」**
（実行が大切。そして、実行した結果から学ぶ）
- 2 **予定管理は、共通アプリで**
（いつでも、どこでも、誰でも「見える化」）
- 3 **連絡は、電話よりも文字・映像で**
（電話は減らす。電話は相手や取り次ぐ人の時間を奪う）
- 4 **庁内照会の発注・集計は、より手軽に**
（庁内の取りまとめ作業に時間をかけない）
- 5 **庁内のルールは、みんなで共有**
（庁内通知、各種規程等の検索に時間をかけない）

目の前の仕事を 「データ × AI × 機械化」しよう

データ化

時間場所制約なく実務遂行
あらゆる状況やニーズ**可視化**

遠方の患者の容体を確認
県道の積雪状況を今すぐ把握

AI化

即時の**分析・予測**
パーソナライズした提案

理解レベルに応じた教材提供
関心興味に応じた観光商材開発

機械化

人手を介さず、
データや機械が**自動処理**

24時間365日の申請受付
リモートでの避難指示発出

10 現場実践に向けて④ 業務共通ルール

若手職員を中心に、デジタルツールを活用した服務規律を整備

Life Style Shift 共通ルール

- 1 意思決定は、「早く決め、早く実行」
(実行が大切。そして、実行した結果から学ぶ)
- 2 予定管理は、共通アプリで
(いつでも、どこでも、誰でも「見える化」)
- 3 連絡は、電話よりも文字・映像で
(電話は減らす。電話は相手や取り次ぐ人の時間を奪う)
- 4 庁内照会の発注・集計は、より手軽に
(庁内の取りまとめ作業に時間をかけない)
- 5 庁内のルールは、みんなで共有
(庁内通知、各種規程等の検索に時間をかけない)



デジタルツールを積極活用

- 会議資料はTeamsで事前共有
- 出先機関とは原則オンライン会議
- Outlookによる進捗管理
- 会議録もシステム活用で同時作成
- 連絡はTeams
(電話よりチャット&映像)
- 集計作業はTeamsやFormsを活用
- 全庁通知はSharePoint掲示板を活用

11

現場実践に向けて⑤

支援ツール

Teams

(庁内連携プラットフォーム)



「DX相談受付機能・掲示板」を準備

(先行者や有識者による助言：職員1/3超登録)

- DX ニュース
- セミナー情報・スキルアップ情報
- よろず相談・DXやってみた・事業者連携

イントラネット

(DX推進のひろば)



職員の実践事例・前向きな取組を公開

(全庁的進捗も可視化)

- 取組み共有 (他人真似の実践もOK)
- みんなで称賛・質問回答 (幹部職員も閲覧)
- モチベーション向上・自分事化 (更なる実践)

12 現場実践に向けて⑤ D X 制度 1

職員のやる気を引き出し、D X を面的に後押しする仕組み

ふくい式 20%ルール

担務以外の活動推奨
(積極性を支援)

- 勤務時間の一部
(20%以内)を活用、
新たな創造的活動に
従事可能
- 取組み例
 - 業務改善
タスクフォース
 - 生成AI実証
部局横断チーム等

チャレンジ 政策提案

若手職員が直接
知事に事業提案

<令和4年度>

- ① 提案14件
(73名参加)
- ② 事業化10件



いいね! チャレンジ

業務改善を相互に称讃
取組みに光を当てる

- 身近な改善、先導的
事例を全庁展開
(使用ツール不問:
MSツール、Kintone等)
- 評価事例は幹部表彰、
クレドアワードへ推薦
- 応募例
 - 生成AIプロンプト
 - 県民要望一元化等

クレド アワード

クレドに基づく
優れた行動成果を表彰



13 現場実践に向けて⑤ DX制度2

職員のやる気を引き出し、DXを面的に後押しする仕組み

予算編成方針

DX事業は
シーリング対象外

< 予算編成方針 >

- ① 長期ビジョンに基づく県政推進
- ② DX推進によるポストコロナの社会づくり
- ③ 国の予算編成への的確な対応、徹底した行財政改革実行

政策トライアル枠 予算

アジャイルでの
事業検証を可能に

- 年度途中で執行可能
- 財政査定や知事承認の必要がない予算枠
(年度当初に一括措置)
- 取組み例
 - 観光施設の混雑可視化
 - 海産物の資源量可視化・管理 等

人事通達 LSS共通ルール

ペーパーレス化推進
〔内容・目標・進捗管理〕
を明文化

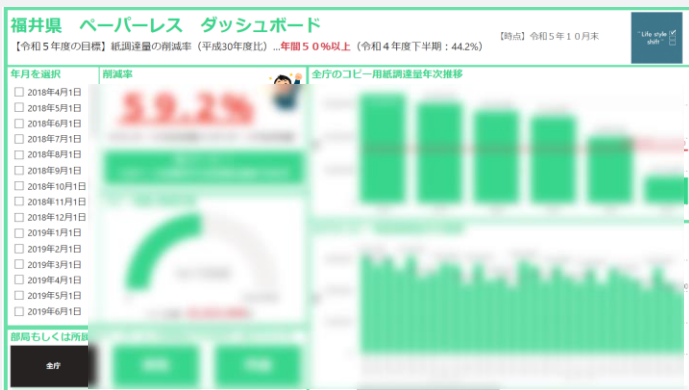
- 会議、ヒアリングは原則ペーパーレス
- リモート勤務拡大
- 電子決裁徹底
- FAXレス推進
- コピー用紙調達量の上限設定 (BI可視化)
- 行政手続き電子化

14 現場実践に向けて⑥ 予実管理

ダッシュボードにより進捗見える化・即時の対応を徹底

ペーパーレス

時期別・所属別で進捗把握



テレワーク

時期別・所属別で進捗把握

部署	令和4年度		令和5年度					R5 未実施者
	年度計	R4 未実施者	4月	5月	6月	7月	8月 (増進月間)	
総務部								
未来創造部 (地域戦略部)								
交流文化部								
防災安全部 (安全環境部)								
エネルギー 環境部								
健康福祉部								
産業労働部								
農林水産部								
土木部								
教育庁								
議会局								
各委員会								
全庁計								

研修受講状況

所属別・講座別で進捗把握



15 育成確保の考え方

「全員で自転車に乗る仕掛け」と「変わる力と意思を補強」

育成

(県市町共同化・ステップ型・やるきスイッチ)

共同化

県市町共同で整備・活用

- 人材育成方針 (職責ごとに整理)
- 研修 (内製・ハンズオン型・BIで実践管理)

3段階

- 座学
- 実践 (ハンズオン)
- 伴走 (with 専門人材・協定事業者 + IT企業派遣)

仕掛け

- 障壁を下げる企画 (やってみたら意外と簡単)
- 真似から始める支援 (相談体制・先行事例共有)
- やる気になる制度 (挑戦推奨・相互賞賛・褒賞)
- やらざるを得ない環境 (知事説明・現状可視化)



確保

(即戦力確保・全体引上げ・世の常識との接点)

考え方

- 育成には一定程度の時間が必要
- 規模の小さな基礎自治体はリソース不足
- 優れた人材は組織全体のレベルを引き上げ
- 世の中の常識との接点を増やす必要
(体感的に「変わらねば」と組織の意識を変革)



対応

- 採用制度見直し (DXアピール枠導入)
- 民間専門人材の委嘱 (DX推進アドバイザー)
- Civic Techとの連携 (Code For Fukui等)

16 成功体験と支援体制

100を超える自主的取組みで年間3万時間の業務時間削減

実践

全庁
ブートキャンプ
(終わるまで帰れない)



市町
業務改善
キャンプ
(3日間：ローコード)



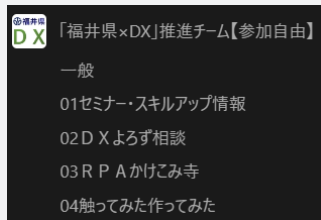
産業
ITスクール
(実践支援・
就労マッチング
県デジタル基盤開放)



一歩踏み出す (利便・効果を実感)

支援

相談受付
(職員が相互に助言
職員の1/3が登録)



実践事例
共有
(ヒト真似実践もOK)



外部専門人材
アドバイザー

6名体制
計画策定支援・
データ分析・
業務改善・内製化等



仲間と共に取組み

面的展開

DXリーダー制
(全所属から280名
各課実務で業務改善)



やる気になる仕掛け (制度設計)

20%ルール : 担当外業務に従事可
チャレンジ政策提案 : 知事に直接事業提案
いいね!チャレンジ : 職員相互で評価賞賛
クレドアワード : 成果を手当てに反映

取組み可視化
(実践を促す)



挑戦促進・実践仕組み化

17 今後の取組み (令和5年度第1回本部会議付議資料)

実証実験から社会実装へ、デジタル前提の業務見直しを徹底

社会実装・現場支援

デジタル前提の業務見直し

デジタルの社会実装事業を 全部局で検討願いたい (R5補正・R6当初)

R5年度取組の一例

ドローン防災

被災状況の
早期把握・発信



地域交通DX

IC化・タクシー配車
Ma a S導入



地域通貨

地域版〇〇Pay
地域社会・経済活性化



● 電子申請

全申請電子化 (原則) に取組
※R4で96%実施済 (対計画+6pt)

● ペーパーレス

▲50%達成 (R5通期) に取組
※R4下期▲44% (計画未達: ▲6pt)
(内訳: 本庁▲50%、出先▲34%)

● リモートワーク

35%以上達成 (R5通期) に取組
※R4月次実施率31%

● 業務改善

RPA・ローコード等に加え、
生成AI活用での生産性向上に取組
※実証 (活用法・リスク精査) → R5全庁展開

● アナログ規制 見直し (条例等)

国の方針・技術精査を踏まえ取組
※県アナログ規制は665条項存在
※見直しチームより全庁照会を予定

18 今後の取組み (令和5年度第1回本部会議付議資料)

県のみならず、市町・産業・教育のDX推進を徹底支援

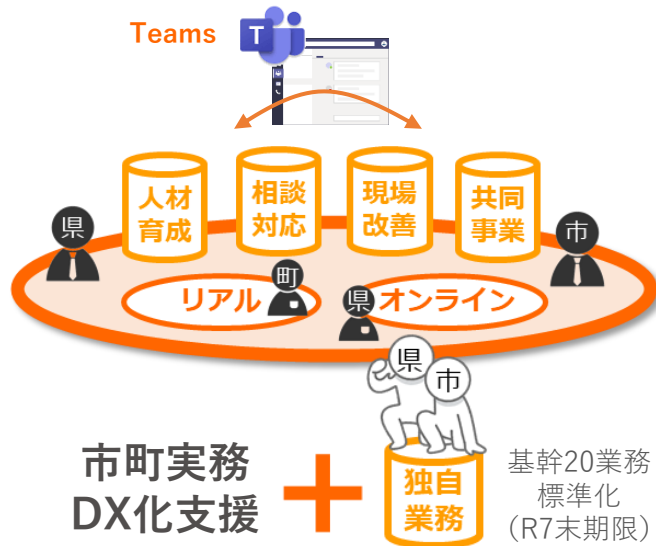
県市町協働

現場取組を一体的に運用

共同推進体制整備

(支援 → 一体的共同推進)

Teams全県接続 + 標準化伴走支援



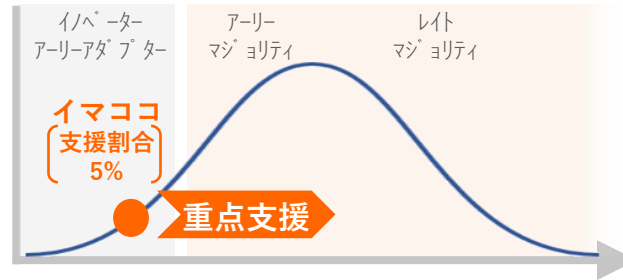
産業DX裾野拡大

企業現場のDX支援強化

マジョリティへの普及促進

(仕組み整備 → 産業界連携推進)

デジタル接点拡大 + 支援強化



- 押し掛け型支援 (商工団体・金融機関等と連携)
- 個別支援強化 (業種別展開・お試し導入等)
- 県基盤開放 (データ連携・地域通貨)

教育DX推進強化

県・市町・学校で連携強化

共同推進体制整備

(計画体制整備 + 実行力付与)

仕組み + 外部専門家 + 実践共有

外部専門人材



平井先生



県アドバイザー

実践共有



ふくい教育フォーラム等

体制整備

- 学校教育DX推進計画
- 県市町教委連携体制構築
- 教員サポートセンター整備
- モデル校教員PT設置

19 DXはチェンジマネジメント

マインド・働き方・組織制度・事業まで変革

職員の日々の実務的な対応＋幹部による組織的かつ粘り強い取組みが必要

~~号令掛けたら
一度に変わる？~~



まず必要なことは「意識変革」



- ① DXのイメージを持つ
(やり方を変える話、利便性・生産性向上を実感)
- ② 自分事化する・DXありきで考える
(取り組む理由を肚落ち)
- ③ やってみる・目に見える成果を意識的に創り出す
(やってみたら難しくない・取組みが評価される実感)

一歩目を
踏み出す



変革に向けた機運や熱量を高める

- 部下や現場、他人に丸投げしない
- 目指すべき方向とゴール・物語を共有
- 適切な牽引役を設置・推進体制を整備活用
- 必要な支援を提供・課題を一つずつ潰す



20 皆さまが変革のリーダーに

自ら変わり、組織を変えていこう

(現場の障壁は一緒に解決します、取組の障壁あれば是非聴かせてください)

過去寄せられた声など

- 上司が紙を求める
- デジタル活用をお遊びだと思ってる
(理解を得られない)
- 話が通じない
(デジタルわかる人がいない)
- 研修の出席率も低い
(部長級・事務方は多数出席)

組織力向上に向けて「効率化×成長」を

- デジタル技術の特質を理解し、
これまでの仕事を**抜本的に見直し**
- 最小の労力で最高の結果を生むため、
新たな発想・手法を採用
- 一人ひとりの楽しさ・創意工夫が
県の活力を高めるための大切な一步、
チャレンジする姿勢を評価